

東京医科歯科大学医学部附属病院と歯学部附属病院の一体化計画概要

○医学部附属病院と歯学部附属病院一体化の時期

2021年10月1日

①各病院の現状

名称	医学部附属病院	歯学部附属病院
所在地	東京都文京区湯島 1-5-45	
病院種別	特定機能病院	病院
病床数	753	60

②合併の経緯及び理由

これまでは、医学部附属病院と歯学部附属病院は別の医療機関として、診療・教育・研究を行ってきた。

近年、周術期やがん患者への歯科診療の必要性が増していることや、複数疾患を持つ高齢者などのハイリスク患者に対する歯科診療における全身管理の重要性が高くなっていることなどの現状を鑑みて、医学部附属病院と歯学部附属病院をひとつにすることでシームレスな医科歯科連携をはかり、医療安全および感染対策等も含めたより高度なトータル・ヘルスケアの実践を目指していきたい。

大学病院は、本来の目的である「医師等の育成」、「新たな医療技術の研究・開発」、「高度な医療の提供」を行いながら、医療の質・安全に対する社会的責任が強く求められる。このような状況の中で、世界最高水準のトータル・ヘルスケアを確立する為には、医科と歯科の特色を活かすことのできる一体的かつ効率的な体制の構築が必要不可欠と考えられる。医療機関をひとつにすることで、これまで以上の良質な医療の提供、医療安全の向上、教育研修体制や治験・臨床試験支援体制の充実および各部門の集約化による業務の効率化など、教育・研究・診療の面で大きな効果を生み、その効果が都民へ還元されることが期待される。

③合併後の病院の概要

(敷地概要)

計画地	敷地面積	用途地域	建蔽率	容積率
東京都文京区湯島 1-5-45	44,811.03 m ²	商業地域	56.25%	581.34%

※大学含む

(建物概要)

病床数	建物構造	建物面積	延べ面積
813床	医科棟：S/SRC 歯科棟：RC	10,310.54 m ²	121,855.6 m ²

④医療機能及び地域における役割

- 区中央部には、特定機能病院が6施設（大学病院本院は5施設）あり、高度医療提供施設が集積し、様々な地域から患者が流入してくるため、引き続き高度急性期機能体制を維持する
- 難病医療の充実
 - 難病医療における東京医科歯科大学病院のプレゼンスをさらに強化
 - 膠原病・リウマチ先端医療センター、潰瘍性大腸炎・クローン病先端医療センター、神経難病先端医療センターおよび稀少疾患先端医療センターの4センターの運営による難病患者を対象とする先進的な診療及び臨床教育・研究の強化
- がん医療の充実
 - 医科と歯科の関連する診療部門で横断的に組織されたみみ・はな・くち・のどがんセンターなど、包括的がん治療センターによる先進的な診療及び臨床教育・研究の強化
- 災害救急医療の促進
 - 病院救急車所有と運用
- 地域包括ケアシステムにおける大学病院の役割の確立
 - 1) PFM（Patient Flow Management）の強化
 - 2) 在宅医療のシフト化に伴うスムーズな地域連携
 - 3) 外来における療養相談・指導の強化
- ゲノム医療の充実
 - プレシジョンメディシンセンターの創設
 - 緩和ケアセンター、がん相談支援センター等からなる総合がん診療部門の実現
- 歯科医療体制の充実
 - 歯学部附属病院で実施している高度歯科医療の継続
 - 全身管理や複数疾患を持つ患者などに対する歯科医療体制の強化